

日本高血圧学会

実装高血圧 2026 推進宣言

あらゆる高血圧対策を社会実装し 良い血圧をすべての人に

日本高血圧学会は、「良い血圧で健やか 100 年人生」の実現を目指し、高血圧の予防、早期発見、適切な治療、そして社会全体での血圧管理の向上に取り組んできました。2025 年には、高血圧管理・治療ガイドライン 2025 (JSH2025) を発表し、朝の家庭血圧測定を国民に啓発する「血圧朝活キャンペーン」、多くの人々に血圧測定機会を届ける「キオスク血圧」を社会基盤とすべく推進しています。2026 年第 48 回日本高血圧学会総会では、新時代のネットワーク高血圧学をテーマに、次世代の高血圧治療モデルとその社会実装について議論が交わされます。エビデンスに基づく高血圧対策も、実地医療と人々の生活に浸透して初めて、治療・予防の効果を社会にもたらします。

日本高血圧学会は、先進技術と人の力をつなぎ、社会全体に高血圧対策を実装するため、

- **血圧朝活とキオスク血圧**を両輪に、すべての人が自らの血圧を知り、血圧測定から医療につながる社会をつくります。
- **高血圧管理・治療ガイドライン(JSH2025)**を日常診療に実装し、24 時間 365 日、季節や環境に対応した血圧管理を実践します。
- デジタル技術・人工知能(AI)・ネットワークを基に、学術研究および社会実装における産官学連携と、誰ひとり取り残さない高血圧対策の実現に邁進します。
- 高血圧対策の実装を科学的に評価し、日本の高血圧管理・治療実装モデルを世界に向けて発信します。

日本高血圧学会が推進する「**実装高血圧**」は、新しい病型や病名ではありません。高血圧管理・治療に実装科学の考え方を導入し、エビデンスに基づく高血圧対策を社会全体で実践する取り組みです。さらにエビデンスと日常診療との間にある隔たりを明らかにして、高血圧対策実践の成果を科学的に評価していきます。この活動の最終的な目標は、国民の血圧管理の改善と脳心血管疾患の減少です。

日本高血圧学会は、日本高血圧協会をはじめとする関係団体と連携し、高血圧対策の社会実装、すなわち「実装高血圧」を推進することにより、国民ならびに国際社会の健康とウェルビーイングの向上に寄与することを宣言します。

2026 年 10 月 10 日

第 48 回日本高血圧学会総会 会長・日本高血圧学会 理事長 苅尾七臣
第 48 回日本高血圧学会総会 事務局長 星出 聡
日本高血圧学会 副理事長 西山 成
日本高血圧学会 副理事長 柴田 茂
高血圧管理・治療ガイドライン 2025 委員会 委員長 大屋祐輔
日本高血圧協会 理事長 樂木宏実